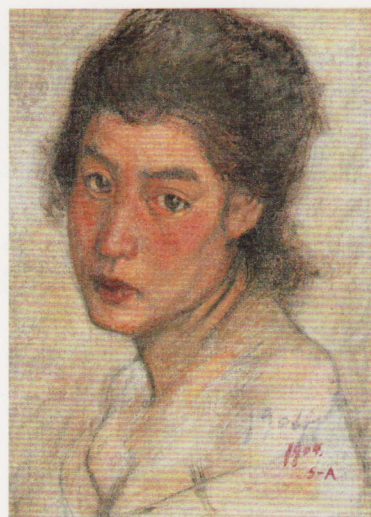




「麗子座像」 岸田劉生 メナード美術館蔵



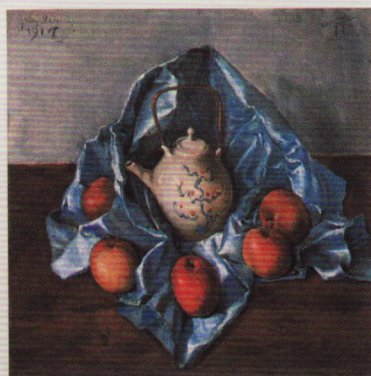
「女の顔」 青木繁



「染付たて文様壺」 富本憲吉



「蜻蛉文箱」 藤井達吉



「静物(土瓶とシェスの布と林檎五个)」 岸田劉生

Shibakawa Terukichi Collection

幻想のコレクション

芝川照吉

劉生、達吉、柏亭らを支えた
もう一つの美術史

2005年12月6日<火>～2006年1月29日<日>

開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日：12月12日(月)、19日(月)、26日(月)、12月29日～1月3日、1月10日(火)、16日(月)、23日(月)

入館料：一般300円(240円)、小中学生100円(80円)

* ()内は10名以上の団体料金、60歳以上の方および障害者の方は無料、毎週土曜日は小中学生無料

講演会◎12月10日(土)午後2時より「岸田劉生と芝川照吉」 浅野徹(名古屋芸術大学教授)

渋谷区立松濤美術館

THE SHOTO MUSEUM OF ART

東京都渋谷区松濤2-14-14 〒150-0046

TEL.03-3465-9421 FAX.03-3460-6366

<http://www.city.shibuya.tokyo.jp/>

しば かわ てる きち
芝川照吉(1871-1923)は、明治から大正にかけて毛織物貿易で巨富をきづき“羅紗王”とよばれた芝川商店の実業家です。
日本洋画家の援助をつづけ膨大なコレクションをつくりあげた、近代美術における庇護者のさががけです。

青木繁と坂本繁二郎、岸田劉生をはじめとする草土社グループ、浅井忠や石井柏亭とその仲間たち、藤井達吉や富本憲吉ら近代化を目指した工芸家たち、芝川の援助をうけたのはじつに多彩な顔ぶれです。
漱石との交流も語られるなど文化的土壌もめぐまれていました。

芝川は美術家との交流をなにより楽しみにしていました。
『劉生日記』には、芝川と頻繁に会食したこと、画家たちが芝川邸につどっていたことなどが書かれています。
大正期の革新的な美術をつくりあげた人々にとって、彼の援助はなくてはならない大きな支えだったのです。

質量において圧倒的であったコレクションですが、芝川の没後は関東大震災にあいほとんどが散逸してしまいます。
本展は、すぐれた蒐集眼によってあつめられたこの「幻想のコレクション」を、できうるかぎり発掘し往時のすがたを再現しようというのがねらいです。

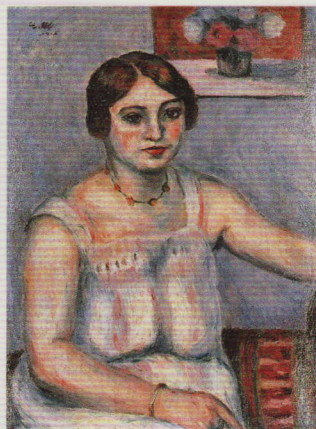
芝川が存在は、蒐集という行為にとどまらず、近代日本の重要な美術動向を支えていたわけで、パトロン、コレクター、画商などの美術をめぐる人々によっても美術史がつくられ語られることを示しているのではないのでしょうか。



「静物」 清宮彬



「享楽」 青木繁 大原美術館蔵



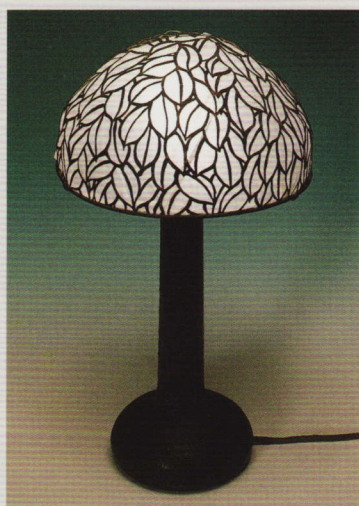
「パルジェヌ」 正宗得三郎 岡山県立美術館蔵



「母子」 坂本繁二郎



「プルトーニウの風景」 森田恒友



「電気スタンド」 藤井達吉

講演会

12月10日(土)午後2時より
「岸田劉生と芝川照吉」 浅野徹(名古屋芸術大学教授)

- ギャラリートーク—— 12月16日(金)午後2時より——担当学芸員
1月20日(金)午後2時より——担当学芸員
- 美術相談—— 12月11日(日)午後2時～4時
講師——林美紀子(木版画)、舟橋淳司(水彩画)
1月21日(土)午後2時～4時
講師——西嶋俊親(油彩画)、水野道子(水彩画)
- 美術映画会—— 12月25日(日)午後2時より
「ラファエロ—聖母子の画家とその恋人」世界・美の旅シリーズ
「モンドリアンの芸術」近代美術・実践と論争シリーズ
1月14日(土)午後2時より
「ベラスケス—素顔の宮廷画家」世界・美の旅シリーズ
「ベルト・モリゾ、キャサリン・アドラーのインタビュー」近代美術・実践と論争シリーズ
- 次回予告—— 2006松濤美術館公募展
むさしの・東松友一の写真
2月12日～26日



- JR「渋谷駅」下車 徒歩15分
- 京王井の頭線「神泉駅」下車 徒歩5分